

2019年度千葉市環境基本計画の点検・評価結果(案)の概要

参考資料4

※2015年度から2019年度の5年間の傾向を評価しています。(2019年度値が未集計のものについては、2016～2018年度等の値を掲載し5年間の傾向を評価。)

環境像	基本目標	主な取組み	定量的目標及び点検・評価指標 (色付き項目は定量的目標及び目標年度、目標値)	単位	<参考> 2011年	2018年	2019年	2018年 傾向	2019年 傾向				
エネルギーを環境にやさしく利用する。	1) エネルギーを環境にやさしく利用する。	①「千葉市地球温暖化対策実行計画 改定版」に基づき区役所蛍光灯のLED化等に取り組むとともに、道路照明灯のLED化に取り組む等、地球温暖化対策を推進しています。 ②「千葉市建築物環境配慮制度」により、環境負荷の低減及び環境に配慮した建築物の建築を促進しています。 ③自転車利用の促進のため、自転車専用通行帯等の整備を行っています。 ④「千葉市内の公共建築物等における木材利用促進方針」に基づき、公共建築物への木材の利用促進に取り組んでいます。	1 温室効果ガス排出量(2030 13,877千t-CO ₂)	千t CO ₂ /年	(2007) 15,772	(2015) -	(2016) 15,754	達成	-				
			2 公共交通機関利用者数	千人	704	790	785	現状維持	現状維持				
			3 CASBEEによる省エネ建築物数	(累計) 件	28	259	299	改善	改善				
			4 自転車専用通行帯等整備延長	(累計) km	4.1	35.4	39.8	改善	改善				
			5 公共建築物の木工費・全工費費用に占める割合	千円 %	19,439 2.1	86,423 4.0	78,576 3.3	増減	増減				
	進捗状況の評価			定量的目標である温室効果ガス排出量は、目標値を達成できていません。2016年度集計より、千葉市地球温暖化対策実行計画(改定版)による算出方法に変更で掲げた、市域全体の温室効果ガス排出量を2030年度に2013年度排出量から13%削減するという目標に向けて、引き続き施策の推進が必要です。 点検・評価指標については、2項目で改善、1項目で現状維持、1項目で増減となっています。									
	2) 再生可能エネルギー、未利用エネルギーを活用する。	①「千葉市再生可能エネルギー等導入計画 改定版」に基づき、公共施設への太陽光発電設備導入や、小・中学校の屋上の屋根貸し事業などを推進しています。 ②住宅用太陽光発電設備や太陽熱利用システムなどの設置に対する助成制度を実施しています。	6 再生可能エネルギーの活用	kW	4,219	19,836	20,567	改善	増減				
			7 未利用エネルギーの活用	kW	30,490	17,170	17,170	現状維持	後退				
			8 太陽光発電設備設置件数	件	413	136	129	後退	後退				
			9 太陽熱利用給湯システムの利用件数	件	(2012) 18	1	0	後退	後退				
進捗状況の評価			点検・評価指標は3項目で後退、1項目で増減となっています。今後も「再生可能エネルギー等導入計画 改定版」に基づき、更なる導入に努めます。										
3) ヒートアイランド対策を推進する。	①ヒートアイランド現象を緩和するため、省エネルギー、屋上緑化及び市民への啓発等を実施しています。 ②屋上及び壁面の緑化の助成制度を実施しています。	10 屋上壁面緑化助成件数	件	(2012) 0	0	0	増減	増減					
		11 熱帯夜の年間発生日数	日	46	48	34	増減	増減					
進捗状況の評価			点検・評価指標は、2項目で増減となっています。										
資源を効率的・循環的に利用したまち	4) 資源を大切に利用する。	①市民や事業者に対する分別収集の周知徹底と促進を図っています。 ②不燃ごみ・粗大ごみからの鉄類の選別回収を行っています。 ③焼却灰の熔融スラグ化を行っています。 ④多量排出事業者に対し、減量化・再資源化の指導を行っています。	12 一般廃棄物再生利用率(2021 35%)	%	32.0	33.4	31.6	現状維持	現状維持				
			13 産業廃棄物再生利用率	%	53.9	(2017) 49.2	(2018) 50.1	現状維持	現状維持				
			進捗状況の評価			定量的目標である一般廃棄物再生利用率は、5年間で見ると現状維持となっています。目標の達成に向けて、更なるごみの分別徹底と再資源化を推進していく必要があります。 点検・評価指標は、現状維持となっています。							
			5) 廃棄物の発生を抑制する。	①「千葉市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画」を推進しています。 ②「ちばルール」を推進しています。 ③廃棄物適正化推進員や市民ボランティアなど、市民・地域・事業者が主体となって取り組むごみ減量を推進しています。 ④多量排出事業者に対し、排出抑制等による減量化を推進しています。	14 一般廃棄物焼却処理量	千t	265	241	243	現状維持	現状維持		
	15 一般廃棄物焼却排出量(2021 368千t)(1人当たりの総排出量)	千t (g)			384 (701)	353 (608)	345 (617)	達成	達成				
	16 産業廃棄物排出量	千t			3,854	(2017) 4,006	(2018) 4,065	現状維持	現状維持				
	進捗状況の評価			定量的目標である一般廃棄物総排出量は、2014年2月から導入した家庭ごみ手数料徴収制度の効果等により、前年度から引き続き、目標値を達成しました。今後も、目標の達成に向けて、更なるごみの削減を推進する必要があります。 点検・評価指標は、2項目で現状維持となっています。									
	6) 廃棄物を適正に処理する。	①清掃施設の整備を進め、焼却灰の資源化(スラグ等)により最終処分量の削減を図っています。 ②「産業廃棄物処理指導方針」に基づき、産業廃棄物対策の施策を総合的に推進しています。 ③産業廃棄物の不法投棄に対し、監視体制の強化を図っています。	17 一般廃棄物最終処分量	千t	29.6	20.1	18.4	現状維持	現状維持				
			18 産業廃棄物最終処分量	千t	33	(2017) 52	(2018) 53	現状維持	現状維持				
			19 一般廃棄物不法投棄件数	件	1,993	3,027	1,970	現状維持	増減				
20 産業廃棄物不法投棄件数			件	8	4	3	増減	改善					
進捗状況の評価			点検・評価指標は、1項目で改善、2項目で現状維持、1項目で増減となっています。										
自然と人間の調和・共存した快適で安らぎのあるまち	7) 豊かな生物多様性と健全な生態系を確保する。	①造林事業の推進のほか、森林ボランティアの指導・育成などに取り組んでいます。 ②市民と協働で生物の産卵環境である水辺づくりに取り組んでいます。 ③森林ボランティア「森林所有者・市の協働による「里山保全推進事業」」に取り組んでいます。 ④「千葉市谷津田の自然の保全施策指針」を策定し、谷津田の保全に取り組んでいます。 ⑤多自然護岸の整備や市民との協働によるビオトープの管理・運営を実施しています。	21 森林面積(2020 4,381ha)	ha	4,482	(2017) 4,202	(2018) 4,190	現状維持	現状維持				
			22 貴重な生物の生息量(ホタル 個、カエル卵塊)	匹	952	1,088	919	増減	増減				
			23 里山地区の数(2020 6か所)	か所	3	4	4	現状維持	現状維持				
			24 谷津田の保全面積(2021 69.81ha)	ha	40.36	59.26	61.54	改善	現状維持				
			25 多自然護岸整備河川等の延長	(累計) m	9,347	13,428	13,644	現状維持	現状維持				
	進捗状況の評価			定量的目標である森林面積、里山及び谷津田の保全については、3項目で現状維持となっており、目標の達成に向けて更なる施策の推進が必要です。 点検・評価指標は、1項目で現状維持、1項目で増減となっています。									
	8) 豊かな緑と身近にふれあえる水辺を確保する。	①市民緑地を設置し、民有緑地の保全を図っています。 ②親しみのある水辺に整備した護岸の延長に取り組んでいます。	26 市民緑地の数・面積	か所 ha	16 19.4	19 20.3	18 19.9	現状維持	現状維持				
			27 親しみのある水辺に整備した護岸の延長	(累計) m	18,940	23,021	23,021	現状維持	現状維持				
			進捗状況の評価			点検・評価指標は、2項目で現状維持となっています。							
	9) 良好な景観を保全・創造する。	①特別緑地保全地区を指定し、民有緑地の保全を図っています。	28 特別緑地保全地区の数・面積	か所 ha	11 51.3	13 61.1	13 61.1	現状維持	現状維持				
進捗状況の評価			点検・評価指標は現状維持となっています。										
10) 自然とふれあう。	①市民が自然にふれあい親しめる場として、市民緑地や大草谷津田いきもの里、公園、ビオトープ及び市民農園の整備及び管理を進めています。 ②大草谷津田いきもの里や昭和の森等において自然観察会を開催しています。	29 市民農園箇所数・利用者数	か所 人	30 1,555	35 1,674	36 1,372	現状維持	後退					
		30 市民緑地の維持管理団体数	(累計) 団体	17	21	20	現状維持	現状維持					
		31 自然観察会等参加者数・開催数	人 回	507 28	778 24	626 20	改善	後退					
		32 親水性施設整備箇所数	(累計) 箇所	10	12	12	現状維持	現状維持					
		33 大規模な公園の利用者数	千人	2,913	3,102	3,006	現状維持	現状維持					
進捗状況の評価			点検・評価指標は、3項目で現状維持、2項目で後退となっています。										
健康で安心して暮らせるまち	11) 空気のきれいさを確保する。	①大気汚染防止法や環境保全条例、環境の保全に関する協定等に基づき、発生源対策や企業指導、立入検査、常時監視を実施しています。 ②光化学オキシダントの環境目標値の達成に向け、原因物質の一つである揮発性有機化合物(VOC)について、法による排出規制に加え、「千葉市揮発性有機化合物の排出及び飛散の抑制のための取組の促進に関する条例」により事業者の自主的取組を推進しています。 ③微小粒子状物質(PM2.5)について、常時監視体制を整え、高濃度時に注意喚起を行うとともに、効果的な対策に資するため、成分分析を行っています。 ④「千葉市自動車公害防止計画」に基づき、新規導入する公用車への低公害車の率先導入や、交通流対策としての道路整備、エコドライブの推進等を実施しています。	34 一般：二酸化窒素(2021 100%)	達成率%	95	100	100	達成	達成				
			35 一般：二酸化硫黄(2021 100%)		100	100	100	達成	達成				
			36 一般：浮遊粒子状物質(2021 100%)		100	100	100	達成	達成				
			37 一般：光化学オキシダント(2021 100%) (オキシダントに関する新指標)		0	0	0	現状維持	現状維持				
			38 一般：微小粒子状物質(2021 100%)		0.080	0.079	0.081	現状維持	現状維持				
			39 自排：二酸化窒素(2021 100%)		0	100	100	達成	達成				
			40 自排：一酸化炭素(2021 100%)		14	100	100	達成	達成				
			41 自排：浮遊粒子状物質(2021 100%)		100	100	100	達成	達成				
			42 自排：微小粒子状物質(2021 100%)		100	100	100	達成	達成				
			43 降下ばいじん(2021 100%)		0	100	100	達成	達成				
			44 低公害車の保有台数、保有率(公用車)		台 %	100 44.2	100 637	100 658	改善	現状維持			
			45 低公害車普及率(市域)		%	46.9	71.2	73.0	改善	現状維持			
			進捗状況の評価			定量的目標は、10項目中、9項目で環境目標値を達成している一方、1項目で過去5年間環境目標値の達成率が0%(現状維持)となっています。目標の達成に向けて引き続き施策の推進が必要です。 点検・評価指標は、2項目で現状維持となっています。							

環境像	基本目標	主な取組み	定数目標及び点検・評価指標 (色付き項目は定数目標及び目標年度、目標値)		単位	<参考> 2011年	2018年	2019年	2018年 傾向	2019年 傾向			
			達成率%	達成率%									
健康で安心して暮らせるまち	12)川・海・池のきれいを確保する。	①工場・事業場排水については、水質汚濁防止法等に基づき立入検査などにより規制・指導を行っています。 ②公共下水道処理区域において、家庭排水や事業場排水の適正処理を進め、浄化センターで下水の高度処理を推進しています。 ③合流式下水道について、合流改善施設を整備する等放流水の汚濁負荷の削減に努めています。 ④下水道処理区域外において、農業集落排水処理施設の整備や、合併浄化槽設置補助等を行っています。	46 河川:生物化学的酸素要求量(BOD)(2021 100%)	94	100	100	現状維持	達成					
			47 河川:浮游酸素濃度(DO)(2021 100%)	100	100	100	達成	達成					
			48 河川:大腸菌群数(2021 100%)	0	0	0	現状維持	現状維持					
			49 河川:海域:健康項目(2021 100%)	100	100	100	達成	達成					
			50 海域:化学的酸素要求量(GOD)(2021 100%)	0	0	0	現状維持	現状維持					
			51 海域:浮游酸素濃度(DO)(2021 100%)	100	100	100	達成	達成					
			52 海域:大腸菌群数(2021 100%)	100	100	100	増減	達成					
			53 海域:全窒素(2021 100%)	50	50	50	増減	増減					
			54 海域:全りん(2021 100%)	0	50	50	増減	増減					
			55 海域:全亜鉛(2021 100%)	100	100	100	達成	達成					
		56 汚水処理人口普及率	%	98.4	98.7	98.6	現状維持	現状維持					
		57 都川、鹿島川の平常時流量	%	0	0	20	増減	改善					
		58 市民1人あたりの水道使用量	m	96.8	94.7	94.2	現状維持	現状維持					
進捗状況の評価			定数目標は、10項目中、6項目で環境目標値を達成している一方、2項目で過去5年間環境目標値の達成率が0% (現状維持)であるほか、2項目で増減となっています。目標の達成に向けて内陸部から流入する有機物汚濁を削減するなど、更なる施策の推進が必要です。 点検・評価指標は、1項目で改善、2項目で現状維持、となっています。										
	13)まちの静けさやすがすがしさを確保する。	①騒音規制法、振動規制法、環境保全条例に基づき、工場・事業場に立入調査を実施し、設備の改善等の指導を行っています。 ②建設作業について、工事開始前から事業者に対して指導を行っています。	59 騒音地域類型ごとの環境目標値の達成率(2021 100%)	達成率%	2011 82	2014~ 2018) 92	2015~ 2019) 90	現状維持	現状維持				
進捗状況の評価			定数目標である環境目標値は現状維持であり、目標の達成に向けて更なる施策の推進が必要です。										
健康で安心して暮らせるまち	14)有害な化学物質による環境汚染を未然に防止する。	①ベンゼン等の有害物質について、大気汚染防止法等に基づき排出抑制対策を指導しています。 ②ダイオキシン類について、ダイオキシン類対策特別措置法に基づき、排出基準等の遵守状況を確認するため立入検査を実施しています。 ③PRTR法に基づき届出データを集計し、ホームページ等で情報提供しています。	60 有害物質:ベンゼン(2021 100%)	100	100	100	達成	達成					
			61 有害物質:トリクロロエチレン(2021 100%)	100	100	100							
			62 有害物質:テトラクロロエチレン(2021 100%)	100	100	100							
			63 有害物質:ジクロロメタン(2021 100%)	100	100	100							
			64 有害物質:アクリロニトリル(2021 100%)	100	100	100							
			65 有害物質:塩化ビニルモノマー(2021 100%)	100	100	100							
			66 有害物質:水銀及びその化合物(2021 100%)	100	100	100							
			67 有害物質:ニッケル化合物(2021 100%)	100	100	100							
			68 有害物質:クロロホルム(2021 100%)	100	100	100							
			69 有害物質:1,2-ジクロロエタン(2021 100%)	100	100	100							
70 有害物質:1,3-ブタジエン(2021 100%)	100	100	100										
71 有害物質:ヒ素及び無機ヒ素化合物(2021 100%)	100	100	100										
72 有害物質:マンガン及び無機マンガン化合物(2021 100%)	100	100	100										
73 ダイオキシン類(大気)(2021 100%)	100	100	100										
74 ダイオキシン類(水質)(2021 100%)	100	100	100										
75 ダイオキシン類(底質)(2021 100%)	100	100	100										
76 ダイオキシン類(地下水)(2021 100%)	100	100	100										
77 ダイオキシン類(土壌)(2021 100%)	100	100	100										
78 PRTR法による化学物質届出排出・移動量	t	1,706	2,923	3,535	増減	増減							
進捗状況の評価			定数目標である環境目標値は、全項目で目標を達成しており、順調に進捗しています。 点検・評価指標は、増減となっています。										
健康で安心して暮らせるまち	15)地下水・土壌等の安全を確保する。	①地下水については、水質汚濁防止法に基づく概況調査や定期モニタリング調査等のほか、汚染が確認された場合は、その周辺の汚染範囲等の確認調査を実施しています。 ②汚染井戸所有者へは、飲用指導及び上水道布設助成や浄水器の設置助成を行っています。 ③土壌汚染対策法及び土壌汚染対策指導要綱に基づき、事業者に対して、工場跡地等の土壌調査を指導し、汚染が確認された土地については処理対策の実施を指導しています。	79 地下水:揮発性有機化合物(2021 100%)	概況 100	概況 99	概況 99	達成	現状維持					
			80 地下水:六価クロム(2021 100%)	概況 100	概況 100	概況 100	達成	達成					
			81 地下水:ヒ素(2021 100%)	概況 98	概況 97	概況 99	現状維持	現状維持					
			82 地下水:硝酸性窒素・亜硝酸性窒素(2021 100%)	概況 89	概況 83	概況 85	現状維持	現状維持					
			83 地下水:その他(2021 100%)	概況 100	概況 100	概況 99	達成	現状維持					
			84 土壌汚染の環境目標値の達成(2021 100%)	97	94	95	現状維持	現状維持					
			85 単年度沈下量2cm以上の地点数	件	164	0	0	現状維持	現状維持				
進捗状況の評価			定数目標は、1項目で環境目標値を達成しているものの、5項目で現状維持となっており、目標の達成に向けて更なる対策の推進が必要です。 点検・評価指標は、現状維持となっています。										
健康で安心して暮らせるまち	16)環境保全・創造の意欲を推進する。	①自然観察会などのイベント、キャンペーンによる情報を発信しています。 ②大草谷津田いきもの里や廃棄物処理施設などを活用し、環境の保全・創造の意欲増進を推進しています。 ③事業者と地球環境保全協定を締結し、環境にやさしいまちづくりを推進しています。	86 環境関連施設利用者数	人	10,364	8,314	8,647	現状維持	現状維持				
			87 環境マネジメントシステム認証取得事業所件数	件	132	219	203	現状維持	現状維持				
			88 環境保全活動団体数	件	76	77	79	現状維持	現状維持				
			89 地球環境保全協定の締結数	件	883	903	859	現状維持	現状維持				
			90 市民の環境配慮行動実践状況	%	76.2	68.4	75.6	現状維持	現状維持				
			91 事業者の環境配慮行動実践状況	%	76.0	72.6	73.1	現状維持	現状維持				
			進捗状況の評価			点検・評価指標は、6項目で現状維持となっています。							
			健康で安心して暮らせるまち	17)環境教育を推進する。	①小・中学校における環境教育教材等の配布、環境学習モデル校を指定しての環境保全に関する様々な活動の実践及び市民を対象とした公民館講座などの実施を行っています。	92 環境学習参加者数(公民館講座)(市民団体自主講座)	人	133 (8)	119 (6)	73 (7)	後退	増減	
						93 環境学習モデル校参加児童・生徒数	人	4,456	5,387	4,139	増減	増減	
						進捗状況の評価			点検・評価指標は、2項目で増減となっています。				
健康で安心して暮らせるまち	18)市民、事業者、民間団体等との連携を推進する。	①市民、事業者と連携し地球温暖化防止や自然保護の取組みを実施しています。 ②森林保護や自然保護、公害防止について人材育成を行っています。	94 市民、事業者等と連携した事業数	件	27	29	29	現状維持	現状維持				
			95 人材育成数	人	1,732	1,333	1,208	後退	後退				
進捗状況の評価			点検・評価指標は、1項目で現状維持、1項目で後退となっています。										
健康で安心して暮らせるまち	19)環境関連産業を育成し、技術開発を促進する。	①中小・ベンチャー企業の経営者・技術開発担当者を対象としたベンチャー・カップCHIBAにおいて、ビジネスプランの募集などを行っています。 ②(公財)千葉市産業振興財団において相談事業を行っています。	96 環境分野に関する相談件数	件	-	10	4	後退	後退				
			進捗状況の評価			点検・評価指標は、後退となっています。							
健康で安心して暮らせるまち	20)地域間協力・国際協力を推進する。	①九都県市や近隣市町村等と連携し、広域的な取組みを行っています。 ②九都県市首脳会議環境問題対策委員会でJICA研修生を受け入れています。	97 地域間協力した取組み数	件	6	6	5	現状維持	後退				
			98 海外研修員等環境関連交流人数	人	13	14	15	増減	増減				
進捗状況の評価			点検・評価指標は、1項目で後退、1項目で増減となっています。										